



ア エ ファ AEFA 通信

NPO法人 アジア教育友好協会

〒105-0014 東京都港区芝3-3-10 芝園オーシャンビル8F

電話 03(6426)0720 /FAX 03(6426)0721

<http://blog.canpan.info/aefa/>

東京都武蔵村山市立第十小学校 ラオス親善大使たちが 日本財団 & ラオス大使館を訪問

ワンコイン・スクールプロジェクトに全校で取り組む武蔵村山市立第十小学校。中心となって活躍する「ラオス親善大使」5&6年生23名が1月24日、同プロジェクトを応援している日本財団とラオス大使館を訪問しました。

日本財団では、笹川会長をはじめ職員の皆様の温かい歓迎を受けました。児童代表から、家のお手伝いなどで貯めたお金の目録を、会長に贈呈。第十小児童のがんばりや思いやりがいっぱいだった大事なお金を、熱い想いとともに届けました。子どもたちからの寄附と同額を支援することに賛同した、日本財団笹川会長から、感謝状と共に「これからもしっかりと勉強と努力を続けてください」とのエールを頂きました。



笹川会長に目録を贈呈

ラオス大使館では、シートン駐日大使殿下に表敬訪問！緊張の面持ちの子どもたちでしたが、「みんなも私も同じ“大使”だね！」と気さくに声をかけられると、笑顔が弾けました。

「みなさんがラオスの子どもたちのことを想ってくれて、本当に嬉しく思います。将来はこの中の誰かが、本当に大使になるかもしれないですね！これからも、ラオス親善大使としてラオスと日本の友情を更に深めてください」との温かいお言葉を頂きました。大使と記念撮影のあとは、ラオスに関するビデオを視聴したり、ポンケオ書記官の案内でラオスの生活雑貨や織物を見学。

「ラオス親善大使」の子どもたちにとって、ますますラオスが身近になった1日だったのではないのでしょうか。

日本財団およびラオス大使館の皆様、
どうもありがとうございました！！



シートン大使（中央）を囲んで
右端）榊校長先生
最後列）鶴田副校長先生

ワンコイン・スクールプロジェクト 福井県勝山市村岡小の皆さんが 製品を手作りして販売！

村岡小学校では、町民文化祭でワンコイン・スクールのための販売と募金活動を行いました。

4年生は、給食の廃油を使って石けんとろうそくを手作りしました。また、学校花壇で育てている花を使って、カラフルなオリジナル押し花しおりも作成。どの作品も、学校で出たものを大事に活用しました。5年生は、みんなで協力して植物の苗を販売したそうです。

地域の皆さんへ販売を行ったところ、集まった金額は“23,919円！”。

同小4&5年生「42人のワンコイン分が達成できた！」と、子どもたちもとても喜んでいるそうです。

村岡小と地域のみなさん、ありがとうございました！



色とりどりの
廃油せっけんを販売



5年生は苗を販売！

ワンコイン・スクールプロジェクト 東京都杜松小学校ぎんなん募金

1月21日、杜松小学校全学年児童を対象に、出前授業を行いました。同じ年頃のラオスの友だちが、一生けん命家族のお手伝いをする写真などを真剣に見つめていました。杜松小学校の校庭にはいちょうの大木があり、毎秋落ちた銀杏を子どもたちが1粒ずつ洗い乾かし、袋詰をして販売。その売上げをご寄付頂いています。21日は学校公開日だったことから、保護者の方も授業に参加。この日も玄関では銀杏が売られていました。

★ぎんなんに添えられていたメッセージ★

ぼくはぎんなんのかわむきと洗うことをしました。くさかったけど、がまんして皮むきをつづけました。このぎんなんが売れたお金はラオスにおくられます。そしてラオスの子どもたちにサッカーボールやバットなどの遊び道具を届けることができます。みなさんぜひ買って下さい。



AEFA出前授業ツアー 倉敷／長野／津 地区

◆◆◆ 12月7日～8日 倉敷市 ◆◆◆

■柏島小学校 & ラオス・サボン小学校

5&6年生が熱心に話を聞いてくれました。サボン小のために募金活動を行ったこと、柏島小学校紹介壁新聞を作ってくれたことを児童会の皆さんが紹介。けんだまやだるま落としなど、むかしのおもちゃも、交流作品としてお預かりしました。



■玉島南小学校 & ベトナム・アップラン小

毎年アルミ缶を回収し、得たお金をアジアの学校に寄付してくれています。今年はベトナムのアップラン小学校への寄付を預かりました。4-6年生280人が熱心に話を聞いてくれました。



■水島中学校

3年生に出前授業を行いました。お弁当の絵、折り紙作品、日本文化紹介など、中学生らしいユニークな視点でベトナムの子どもたちに届ける作品を作ってくれました。生徒会では現在ベルマークを集めてベトナムにソフトボールを送る運動をしています。



◆◆◆ 12月16日 長野市 ◆◆◆

■大岡小学校 & ラオス・トンコー小学校

“大根プロジェクト2010”として種まきから収穫・販売まで地域の皆さんの協力を得ながら子どもたちが行き、収益を寄付頂いています。児童会と4年生から、トンコーへの寄付をお預かりしました。



◆◆◆ 12月16日～17日 津市 ◆◆◆

■辰水小学校

4-6年生対象に出前授業を行いました。交流コーナーが設けられ、作品や写真を展示。作品を預かりました。

■高野尾小学校 & ラオス・ピアラー小学校

4-6年生77人対象に授業を行いました。キャリア教育の一環として、6年生が会社を作り『製品』を手作りして販売。その売上をどのように使うかディベートを行います。約半分を、ラオスのためにご寄附頂きました。



■南が丘小学校 & ラオス・ナトゥム小学校

5年生に出前授業。2010年「第5回AEFAフォーラム」で、メッセージ入りこいのぼりで『交流大賞』を受賞した同校のラオスとの交流コーナーは、ナトゥムの写真や交流作品だけでなく、ラオス語の挨拶や識字率についての資料など、充実した内容！ラオスのもち米入れや、大賞受賞の様子も掲示されています。



新宿区余丁町小学校研究授業に参加しました

1月20日(木)東京都新宿区余丁町小学校における研究授業に、谷川がゲストティーチャーとして参加しました。6年1組の深尾先生のクラスでは「世界の未来と日本の役割」というテーマのもと授業を行いました。最初に深尾先生がラオスの生活を写真を用いて紹介。子どもたちにはあまり馴染みのない「ラオス」ですが、自分と同じ位の年の子どもが、家族のために働く姿を、真剣な表情で見つめていました。余丁町の子どもたちの目には、どのよう

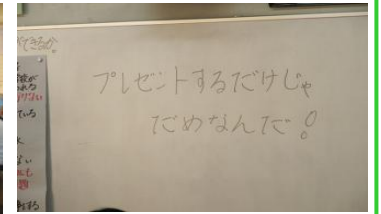


ううつたのでしょうか。「では、谷川さんはこのラオスでどんな活動をしているのだろうか？」深尾先生が呼びかけます。すぐに答えは出しません。子どもたちと考えながら、授業をすすめます。



そして、「ラオスの子どもに、わたしたちはどのようなことができるだろう？」と投げかけました。子どもたちはグループワークを通じて自分の意見を言ったり、友達の違う視点を聞いたり、新しい気づきを得たようです。

この授業をきっかけに、余丁町小学校のみなさんが、「ラオス」という国を身近に感じてくれたのでしょうか。黑板に書かれた「プレゼントするだけじゃだめなんだ！」という文字。どういった支援の方法があるのか、考えるきっかけになってくれたら嬉しく思います。



◆AEFAフレンド会報第10号が完成！◆

今号もAEFA顧問の田中編集長のもと、どのページも見逃せない充実した内容です。昨年12/18(水)、会員の皆様がお手伝い下さり、AEFA会員やフレンドシップ交流校への発送作業を行いました。



皆様のチームプレーと手際よさで、予想をはるかに上回る短時間で作業終了。忙しい中、お手伝いをしてくださった皆様、本当にどうも有り難うございました！

ラオス サラワン教員養成学校 ～奨学生から手紙が届きました～

AEFAは、ラオスの山岳少数民族の若者が、3年間村を離れてサラワン教員養成学校で勉強、教員資格を取得するための奨学金（学費・教材費・生活費）プロジェクトを支援しています。サラワン市内から山岳地帯に赴任してくる教師達は、村の人々とは話す言葉も生活習慣も文化も全く異なるため、山の生活に馴染めず、教員が不足しているのが現状です。奨学生達は自分の村の学校の教員となることを目指し、一生懸命勉強しています。奨学生からご支援者様への感謝状が届きました。

『感謝状』

こんにちは。私の名前はKouyoum Liouxaiyasith（クコム・リョサイヤシット）といいます。サラワン教員養成校で、タオイ郡からの生徒の代表として学んでいます。現在、初等学校課程を専攻し、9+3システムの第一学年で学んでおります。（中学校を修了していると、3年間師範学校で勉強すると先生の免許をとることができます）日本の皆様が私たちの学業をご支援下さっている奨学金に対し、心より深く御礼申し上げます。現在そしてこれからの3年間に亘る多大なるご支援です。本当にありがとうございます。皆様からのご支援に感謝を申し上げます。この御礼状を書いている次第です。私から皆様に差し上げられるものは、何もありません。でも私が言えることは、卒業するまで積極的に、そして前向きに勉強に専心することです。皆様と皆様のご家族が、ご成功を収めますことを祈念しております。

奨学生達は、教師となり故郷の村の子どもに、国の言葉であるラオス語や算数を教え、より多くの教育の機会を与えたい…と願っています。

同プロジェクトにご支援頂いている皆様、ありがとうございます！



ラオス ピアラー小開校式 視察が行われました

2010年度建設校ラオガム郡ピアラー小学校の開校式が、1月30日に行われました。ご支援頂いている「シルバーアーチ基金」様より川上様ご一家がご出席下さいました。ご支援者大久保孝一様からのメッセージは、AEFA理事石原が代読しました。

創業90周年を記念して、2011年度ラオガム郡カニョンケクナイ小学校をご支援くださる近江兄弟社様から、辻取締役、太田課長、鴨主任が現地訪問されました。「今日は、皆さんの事をよく知りたい。そして私たちのことを知ってもらうために来ました」と挨拶された辻取締役。カムカム村長に目録を贈呈、子どもたちとゴムとびや縄跳びをしたり、家庭訪問を行いました。

ドンニャイ中学校をご支援の福島県飯館村からは、教委斉藤博史副主査が現地視察。緊張の面持ちでしたが、いざドンニャイに着くと「ずっと日本で夢見てきた、実際ここに来る事ができて感無量です！」村民集会でメッセージを伝えたり、村民歌を披露したり、飯館の中学生が英訳した絵本を読み聞かせたり、大活躍でした。



学校建設から5年が経つイルン村では、石原氏がコミュニティラーニングセンターを支援。この日のために、1ヶ月前から村人はバナナ畑を切り開いて道路整備。笑顔・笑顔の村人に迎えられ、石原氏は「こんなに素敵な建物は見たことがありません。ここで、村の発展のために皆さん頑張ってください。私も村人の1人としてお手伝いします」と挨拶。ヴィサイ副郡長も、「他の村は小学校すら十分でないのに、イルンはここまで支援をいただきました。村人のみなさん、ここを活用してお互い助け合い、村を発展させていきなさい。教育局のみなさんも、村の発展に協力してください。」と挨拶されました。



近江兄弟社様 ～ ニコニコバザー開催！

山岳地帯の学校への女子寮支援など、継続してラオスへのご支援を頂いている株式会社近江兄弟社様本社にて、昨年11月13日（土）第32回ニコニコチャリティーバザーが開催されました。ラオス山岳地帯タオイ族の手織布と、その布を用いてAEFAちくぬいボランティア



さん達手作りのバッグなどを販売してくださいました。

12月には『辻サンタさん』が、事務所を来訪！バザーの売上をご寄附下さいました。ご支援有難うございます！

